



広島県支部会報



平成27年10月15日

第77号 広島西地区 DIG 指導者講習会

日時：平成27年9月26日（土）10時～16時
場所：廿日市市市民活動センター 2F 第1研修室
主催：日本防災士会広島県支部広島西地区
参加者：地区内防災士14名

[講習会の目的]

西地区年間計画策定時に実施希望が多かった研修事項であり、各防災士が自分の地域等においてDIG講習会のリーダーが務まるようにスキルアップを図る。

[講習会内容の特徴]

- 1 西地区防災士で、DIGの指導経験が豊かな会員をリーダーとする。
- 2 他会員は、提示される事例を自分の地域等に当てはめながら参加する。
- 3 参加者がDIGの指導方法を習得できるように、講習会の時間を長く（5時間）設定する。
- 4 防災士専門委員による他地区の実践例の紹介や指導助言を受ける。
- 5 各防災士は、自分の地域で実施できるDIG指導の案を作成することを課題とする。

[講習会の実際]

1. 指導者

廿日市市阿品地区の藤井義則防災士にリーダーを依頼し、阿品地区をモデルにしたDIGを行っていただいた。

準備物：

リーダーの藤井防災士及び事務局で準備したもの。

- ① DIG指導のテキスト（A4版6ページ）

DIGの効果、ルール説明、指導の流れ、準備物一覧、地図への具体的書込み方法等を記したもの。

- ② 地図書込み等のための準備物
（2グループ分準備）

- ③ その他の資料

廿日市市のハザードマップ3種類（土砂災害ハザードマップ、地震防災マップ、浸水ハザードマップ）、山と平地の境界線を示す地図、海岸線の海抜表示資料等



2. 被害想定と行動目標

大雨警報発令時に南海トラフ地震（震度6弱）が発生し、廿日市市から阿品地域に避難勧告が発令されたとの想定で、各地区町内会から指定避難場所へ避難するルートを確認する。

3. 地図への書き込み（4時間）

2グループに分かれて、グループリーダー、記録係、発表係を決め、自己紹介を行った。その後、地図への書き込み作業をリーダーとグループリーダーの指示の元にテキストにそって行った。

- ① 自然条件の確認（地図に書き込む前の予備学習）
準備された昔の地図等を参考に、宅地がどのように開発されてきているか、昔の海、川、溜池等の位置等を調査、学習する。
- ② 町の主要インフラの記入
JRや私鉄、主要道路、路地、学校・広場等施設、用水路排水溝、延焼を防ぐ建物等を色分けしながら地図に書き込む。
- ③ 地域防災施設等確認
地域をよく知っているグループリーダーを中心に次のことについてグループ討議をしながら、官公署、医療機関、災害救援に関わる施設、地域防災に関わる施設が記入されているか確認する。
- ④ 危険区域の記入
土砂災害ハザードマップ、浸水ハザードマップ、地震防災マップを見ながら危険区域等を記入する。
- ⑤ その他、自販機、危険ブロック塀等の危険施設設備、要援護者世帯、地域防災に役立つ人材等分かること話し合い、記入する。
- ⑥ 避難ルートの確認
書き込みされた地図で、各地区町内会から指定避難場所へのモデル避難ルートを点検し、がけ崩れと浸水が同時に発生したという最悪の状態での避難ルートを見直す。



参加者が協議しながら書き込み



作業成果が進む

4. 発表と協議（1時間）

- ① 2グループの発表担当者による発表と質疑応答や協議を行った。



発表者（阿品地区の藤野防災士）



発表者（阿品台地区の関口防災士）

- ② 柳迫専門委員による指導助言でまとめを行った。
- ・ 1枚の地図にどの程度の防災情報を書き込むかなど柔軟に対応すればよい。
 - ・ DIG作業で作製した地図は、実際の災害発生時に必ず役立つものなので、少しずつ改善して大切に保管して欲しい。

5. あとがき

5時間を超えるDIG指導講習会の時間を忘れて取り組んだ。参加防災士の力量アップに資する事ができたものと思うが、住民対象のDIG講習会を行う場合は、2～3時間程度で実施できるよう目的や内容を絞る等の工夫をすることが必要になってくるだろう。

今回の講習会を基に、他地域の多くで防災士の指導によるDIG講習会が開催される事を願っている。そのため、今回使った地図、テキスト、資料、文具等一式を保存して、必要に応じて貸出し、DIG講習会実施の手助けになるようにしている。

文責：西地区地区長 馬杉征三